

「鹿児島港本港区エリアの利活用に係る検討委員会」第1回幹事会  
議事録(幹事発言)

- ・日 時：令和5年5月19日（金）午後1時～午後2時40分
- ・場 所：市町村自治会館4階「ホール」

議事2(1) 利活用のアイデアに関する意見の取りまとめ方法(案)について

(木方座長)

それではまず(1)の「利活用のアイデアに関する意見のとりまとめ方法(案)」,それから(2)の「プレゼンテーションの方法(案)」につきまして,事務局の方から説明をお願いします。

(富宿室長)

〈 説明 〉

(木方座長)

はい,ありがとうございました。ただ今,資料1それから資料2に基づいて,「利活用のアイデアに関する意見の取りまとめ方法(案)」,それから「プレゼンテーションの方法(案)」ということでお話があったわけですが,これは,この資料の名称のとおり(案)ということとして,皆様の御意見を伺いながら,ここはもう少しこうした方がいいのではないかと,今回は作業部会としての位置付けですので,活発な御議論をいただいてより良い方向で取り纏めていきたいと思っております。

ちょっと私の方からお話をしたいのですが,この後の議事(3)のところ,ゾーニングの素案をどういうふうにつくっていくかというところも議論を始めるわけですが,資料3と書いてある資料が,これまで本委員会の方で進めてきた議論の現時点でのまとめの表という形になっています。本委員会の方に御出席の(委員も兼ねる)幹事の方は御存知かと思えますけれども,特に資料3の中段あたりの「検討委員会で出された意見を踏まえた今後の論点」のカテゴリーとして「公共機能の確保」,「導入機能」,「中心市街地との連携」,「景観への配慮」と書いてありますが,これが本委員会の方で色々出された意見の中で論点として挙がってきて,このあたり

をしっかり考えていかないといけないよねということで共通認識を持っているところです。

今後、本委員会の方で県外視察も含めて様々な検討を進めるわけですが、ここで言う4つのカテゴリーをバランス良く見ていく必要があるだろうということを前回の検討委員会でも確認をしたところです。

そういったこともありまして、今回、アイデアに関する取りまとめということなのですが、事務局の方からは属性に関する円グラフのデータと、意見の内容を導入機能という側面から、どこにどんなものを入れたらいいのかというまとめの表をつくっていただいておりますけれども、これまでの本委員会の流れを考えたところだと、いわゆる導入機能をどうするか、つまり本港区に何を持ってくるかという議論も大切なのですけれども、さきほどの資料3にありますような「公共機能の確保」、特にこれは港湾の物流機能であるとか交通機能であるとか、そういったものとの関係はどうなのとか、或いは「中心市街地との連携」のところで見落としているところはないのかとか、或いは「景観への配慮」ということも大事なテーマになっていまして、皆様の御意見でもかなり多くの方がこの問題について言及されておられます。

ですので、導入機能をどうするかということだけではなくて、いま私が述べたような4点、きちんとバランスよく見て、アイデアというものがどういうふうに出されていて、皆さんどういうようなことを御関心を持ったり考えておられるのかということとを把握していくという必要があると私は思っているのですが、いかがでしょうか。まずこのあたりから議論してみたいと思います。自由に討論していけば良いので、どんなことでも構いません。

(有馬委員)

今これだけ意見が集まってきているのですが、今ちょっと見させていただいたら、スタジアムとか類似しているものがあるので、類似しているものを、この良くできている年代別みたいな雰囲気と統合していただくと、僕は年齢関係ないと思うのですよ。どういう御意見があったのかみたいなものを優先順位を付けて表にさせていただくと分かりやすいのかなと。これ自分ですれば出来ると思うのですが、出来たらそうしていただいた方が、県民の方々、市民の方々がどんなふうに思っているかというのがすごく分かると思うので、ちょっと作業が大変かも知れませんが、是非、順位を付

けて書いていただけたらいいなと思います。

それともう一つ、今、座長の方からあったのですが、それを見た上でゾーニングが先なのか、色んな項目があって、これいいねというのがあってゾーニングをするのか、そこの出発点はちゃんとした方がいいかなと思っていて、後でゾーニングを変えるということよりは、まちづくりの手法としては用途を全部挙げて、こういうのがあるのだったらこういうエリアに持って行った方がいいなというそっちの方が順当だと思うので、どうしてもゾーニングをするとその範疇以外は入れないみたいな雰囲気になってしまうので、自由意見で募集されていると思うので、そこは選ぶ側もそういうのを見て、ひょっとしたらここの方がいいよなという感じになるかもしれないので、そこは御検討していただきたいと思う。

(木方座長)

そうですね、確かにおっしゃるとおりかなと思います。

一方で、今回の特にゾーニングということと言いますと、ゾーニングそのものは個々に独立して存在するものではなくて、AというゾーニングとBというゾーニングの間で関係性も出ますし、一つの全体像としてうまく組み合わせられるかどうかというゾーニングになるので、確かに先にゾーニングを決めてそこに全部ものを決めるということは出来ないし、その逆もまた然りで、こういう機能があるからここにこれをしようといった時に、じゃあだからといってゾーニングは変わらないかという多分そういうわけでもない。つくっていきこうとしているものとゾーニングというものは車の両輪で考えていかないと、どちらかが先に決まったからこれで動かさないというものでもないだろうなというふうには思います。

それから、先程から申し上げているとおり、ゾーニングということがそれぞれ関連性を持って決まってくるのだとすると、まさに公共機能であるとか、動線であるとか、様々な物流とか、それから景観とか、ゾーニングをまたがって影響を与えてくるものというのがあるわけですから、そういったものも同時にきちんと見ていかないといけないと。

再三繰り返しになりますけど、どこに何を置くかという議論だけをやるわけではないということはちゃんと理解しておかないと、逆に意見を出された皆さんもどうなっているのかということになりますので、そのあたりはこの幹事会或いは委員会の成すべき事柄としてきちんと理解をしておく必要があ

るだろうと私は思います。その他に何かありますでしょうか。

(川畑幹事)

この幹事会で何をするのかということも、私自身、まだはっきりと掴めてはいないのですけども、利活用のアイデアを募集しましたということで、これだけアイデア出て来たということで、それをどうまとめるかという話なのですが、我々の作業は、出て来たアイデアをまとめてこうなりましたというのを決めて、こういうことでしたよということを決めるための幹事会ではなくて、座長がおっしゃるように、資料1と資料2の話から今後の論点の話になっているわけですが、全部関連しているわけなので、アイデアはアイデアとして私もさらっとしか拝見していませんけれども、大変立派な、色んな方々から意見をいただいて、それだけ関心が強いのだなということも分かりますし、色んな思いがあるのだなということも分かります。

そういったことをアイデアの一つとして頭に置きながら、どういうふうな論点を整理していくかということだろうと。今の状態で検討委員会に上げて、検討委員会の方も同じようにどういうアプローチがいいかというのは分からないと思うのですよね。そういった意味では少し作業的な、こういう形で進めたらいいんじゃないかというのを幹事会で話をすればいいんじゃないかなと思うわけですが、具体的には今後の論点について色んな意見と照らし合わせながら進めていかないと、結局、何も進まないのではないかと思いますので、こういう論点のところを中心に考えていくべきではないかと思います。

(木方座長)

まさに私が考えていることもそういうことでございます。  
その他いかがでしょうか。

(橘木幹事)

今、検討委員会が3回ほど行われているわけですが、途中でこういう流れになってきているので、ちょっと違和感はあるのですが、例えば今回の県民の方からの意見につきましても、検討委員会の方ではドルフィンポートの跡地にスポーツ・コンベンションセンターを造る、ウォーターフロントパークはそのまま残すという形で、だいたいそのような流れで進んでい

ると承知しているのですけれども、意見の中身につきましては、ちょっと私も時間がなくて全部は見えていませんけれども、だいたい幾つかに分類できるんじゃないかなと思うので、せっかくいただいた意見ですし、一生懸命考えて出していらっしゃるので、全ての意見を反映しなければいけないと思うのですけれども、実際問題として委員会の方にこれを全てそのまま出して、果たして皆さん見れるのかなというのも心配ですし、そういう点では先程お話しいただいたみたいに出来るだけ分類化して、類似のものについてはまとめて提示していただくというふうにするのが現実的なんじゃないかなと思います。

あとゾーニングについては、今回の場合は更地につくっていくということではありませんので、現在、港湾施設がある中、既存の道路がある中、限られたスペース、高さについても、だいたいの皆さんの考え方としては、景観を考えると高さはそんなに高くしたくないという意見が多いみたいですので。ということは高さにも制限がある、ということは容積にも制限があるわけですので、今、全てのもを入れるということはないということはもちろん分かるのですけれども、ゾーニングという形でここにはこれを、ここにはこれをというのは、最初の入口としてはある程度こういうものをつくっていくのだというのが決まった中で、決められた範囲の中で入れていくと。そういう作業をする中で、皆さんの意見の中から入れられるものがもしあるとしたら、それも入れていくとか、そういうような作業の方が進めやすいんじゃないかなと考えています。

(木方座長)

大変的確な御意見をいただいたと思っています。まさにそのとおりだと思っています。

事務局の方から仮の作業経過としてお示ししております資料3の7ページの図表、これが今いただいた意見と関連してきまして、色々いただいている御意見の中で、例えばウォーターフロントパークとかドルフィンポート跡地は、比較的低密度で利用したいという御意見が多く、特にウォーターフロントパークの場合はそういう御意見が多くてですね、その中でも都市的な機能として公園として使っていたりとか、憩いの場として人が憩うということがあるわけですが、一方で住吉町15番街区などは高密度で開発しても良いのではないかと御意見が多くて、例えば、どこに何をどれだけ入れる

かということは、皆さんの御意見どおり全てをやることは出来なくて、ここにあるような全体の密度計画と申しますか、都市計画上の出来上がりの具合みたいなものをイメージしながら、だいたいここにはこれぐらいの感じの容量で、こんな雰囲気のものが欲しいと皆さんおっしゃっているなというのを整理していくと。そういう作業がすごく大事だと思う。それが先程からお話ししている導入機能をどうするかの前に、全体のゾーニングの前に、機能のゾーニングではなくて、空間の密度感みたいなゾーニングも頭の片隅で考えていく必要があるだろうということとして、導入機能以外のことも含めて同時並行で考えていく必要がある。

なので、ちょっとすみません、たくさんしゃべりますが、まず、最初にいただいた御意見を見ていく上で、導入機能をどうするかを表はこの形（資料1）の「エリア及び導入機能(施設)」の一覧表）で作れているのですけれども、もうちょっと違う視点の案みたいなものを、この表に盛り込むのか、別表でつくるのか、ちょっと整理した方が良くかなと個人的に思っています。

例えば、（いただいた意見を）ずっと見ていますと、ある種、目立たない案なのですが、交通のことをすごくしっかり考えておられる案なんかもあるのですね。道路をどうするかとか、駐車場はどうなるのかとか。或いはバスターミナルみたいなものをどこに置くのかとか。それは導入機能というよりもむしろ、何度も言いますが、全体のネットワークの問題をどうするかということちゃんと考えないとまずいだろうということ指摘されている案もありまして、それは例えば導入機能をどうするかという提案と一緒に議論出来ないと思うのですよ。それはそれで承るべき御意見として、まさに意見のカテゴリーとしてきちんと取り扱っていかないと、皆さんが出していただいた意見の中で、非常に重要な、皆さんが見落としているかもしれないところをしっかりと取り上げている意見ということで取り上げることが出来なくなってしまいますので、例えばそういうこと。

或いは、景観もそうでした、景観の話は先程の密度の話にも関わるのですけれども、何をどうつくりたいかということも、その前に、桜島がちゃんと見えるようにしてほしいとか、広々とした海辺を感じたいというのは、導入機能の話とは別の話だと思うのですねそれは。なので、それはそのカテゴリーの意見として、それはどうあるのかというところを把握する必要があると思うのです。なので、私の提案としては、ここで今、事務局案で出て来ている主に導入機能とゾーンに関わる表の他に、例えば資料3で示しているよう

な論点の部分でどこの話をしているのか。「公共機能の確保」、港湾や交通といった問題を取り扱っている意見がどれなのか。有るのか無いのか。或いは景観の話を取り扱っている意見がどれくらいあるのかとか、どういったことを皆さんコメントされているのか。そのあたりも別の表できちんと整理していくということが必要なのではないかなと思っているのですけれども。いかがでしょうか。

(川畑幹事)

まさに座長のおっしゃるとおりだと私も思いますので、進め方をちょっと整理していただきたいなと思います。このアイデアを集めたものについてどう考えて、どうまとめるかということも大事ですけれども、まさしくおっしゃったようにどうあるべきかという論点の話、そういったものも並行してやっていかないと、アイデア234件をまとめたならこうなりただけではですね、とてもじゃないけど検討委員会で検討してくださいという話にはならないだろうと思いますので、そういったところも考えていただきたい。

それと、色んなアイデアがあつて素晴らしいとは思いますが、例え、ある意見では、港湾があるところに、まるで空き地というか何も無い土地であるかのようなアイデアがたくさんあります。しかし、現実的には、そこに港湾機能があつて、例えばそこにサッカー場を造りたいのだという意見もありました。それはそれでいいとは思いますが、そのためには相当な時間がかかりますよね。そういったことは、この中には全く出てこないで、あそこにサッカー場あったらいいよねとかいう話がありますけれども、それじゃあそれを実現するのにあと15年かかるのですよみたいな時間軸みたいな話も出てこないし、そういうことも含めて考えないと、ただ皆さんの意見をまとめただけでは意味がないのではないかと思います。

(木方座長)

まさにそのとおりで、議事2(3)で改めて議論する部分になりますが、ゾーニングを考える上では、上位計画というか、いま既に法的にどういった計画になっているのかとか、様々な先に検討してきたようなランドデザインとかそういうものもありますので、そういった中での実現可能性であるとか法的なクリアをどう出来るのかとか、そういったことも含めて、いつかどこかの段階では時間軸も入れた整理が必要になってくると思うのですね。ただ、

それを先に議論してしまうと、皆さんからいただいた意見というものの良さを活かせなくなってくるので、一応、中身として出されているものは目を通して把握した上で整理をしながら、これはすぐにでも出来る案だけれども、これはちょっと段取りがいるねという仕分けをする必要が出てくると思います。

そういうことで言うと、出てきた案を幹事会でどう取り扱うかというのは、我々幹事会のメンバーであるとか、或いは検討委員会の諸先生方がそれぞれのお立場で考えていることだけではない、様々なお立場の様々な御意見というものが持っている目配りというか、色んな気が付いたことであるとかというのを、なるべくすくい上げていきながら、論点をくまなくというか、もちろん軸になる論点はそこそこ絞られてくるのですけれども、こういう視点があるとか、こういう観点でものを考えるのは非常に大事ななとかいうことを、なるべくうまくすくい上げていけるような形で出来るといいだろうなと思っています。

その上で、先程言ったとおり、最終的には、もう少し現実的な部分の状況を見つつ、優先順位を付けながら案を考えていく。それに関してはこちらかということ、検討委員会の方での意思決定というか判断になるわけで、ここ（幹事会）は検討委員会で考えていただくために整理をして、色々な御意見の持っている価値とか特性といったようなものをお示ししていくということになるのだろうと思っています。

なので、どちらかということ意見の広がりというか、目配りの広さを大事にしたいくて、特定の意見がどう多いとかですね、ここはどう少ないとか、そういうことじゃないのではないかなと私は思っていますけれども。

いかがでしょうか。よろしいでしょうかね。そうするとですね、少なくとも取りまとめ方ということと言いますと、今、事務局の方から出てきております資料1の表ですね、3ページからの表（「エリア及び導入機能(施設)」の一覧表）。こういった表に基づき基本的には整理をさせていただこうと思っておりますが、もう少しですね、さっき言ったとおり、単に導入する機能がどこに何がいいという話だけではなくて、検討委員会で議論してきたような4つの論点をきちんと網羅する形で整理をしていきながら、先程、有馬委員からおっしゃっていただいたとおり、どういう意見がどの程度あるのかとか、少しそういう整理もお示しすると。それを本委員会の方に示す。

そういうふうな形でよろしいでしょうかね。作業は少し増えますが、論点



から見た意見の傾向を見て、その上で特に導入機能の意見は多いですから、導入機能に関してもこの表（「エリア及び導入機能(施設)」の一覧表）でまとめていって、両方を見ながら、最終的に本委員会に示していくと。そういう形にさせていただこうと思いますけれども、よろしいですかね。

何か他に、こういうまとめ方がよいのじゃないかとかあれば。

（検見崎幹事）

検討委員会が複数回行われて、検討すべき課題が資料3の1ページ目にある「港湾として確保すべき機能」を始め、「導入すべき機能」，「中心市街地との連携」，「景観への配慮」，こういう大きな検討課題があるということなので、そうすると今、県民の皆様から230数件の御意見があって、その中でプレゼンテーションをしていただける方が90数件あるという認識ですよね。この90何件が、検討すべき課題の一番どこにスポットを当てているかというのを絞り込んで事務局の方で作業いただくと、90何件が、4つの課題でいいのかわかりませんが、課題ごとにポイントが述べられているということが少し明らかになるんじゃないのかなと。そこからプレゼンテーションしていただく候補者を絞り込んで、検討課題の一つずつに関するカテゴリでプレゼンテーションをいただけるのではないかと。そうすると検討委員会のメンバーの方々、大学の教授であられたりとか経済界の代表であったりとか、多忙な方々なので、ある程度絞り込んでプレゼンテーションを受けられるのではないのかなというふうに感じるのが1つと、プレゼンテーションをなされた場合に、イメージとしてどれを選択するかとか、どれが一番だとか、そういうことにはならないわけですよ。そういうことを踏まえて、最終的には検討委員会のメンバーの方々が、方向性というか、お話しただけなのが手順になるのではないかなというのが、議事2(1)と(2)のところで感じたことでした。

（木方座長）

ありがとうございます。そういうイメージで良いのではないかと思います。

ちよっともう、2番の方の、プレゼンテーションの対象者の選び方の話に少し踏み込んでお話をさせていただいたかなと思いますけれども、今のお話のとおりですね、やはり様々な御提案の形式というのがあって、資料3で言うところの4つのカテゴリをくまなく、まんべんなく押さえて提案されている

方もいれば、本当に導入機能だけをボンとこう、書かれている方もいて、いろいろあるわけです。やっぱりそれは、同等にはなかなか扱えないところがあるので、今ご意見をいただいたとおり、特にカテゴリー4つの中で、この部分を重要に考えていて、検討委員会として、我々がこれから論点として取り上げたいところに関して、深く考えておられる案というのをやっぱり聞いてみたい。それが交通のことを考えておられる方がいれば、景観のことを考えておられる方もいて、当然導入機能のことを考えておられる方もいるというような、そういうバランスでプレゼンテーションにお招きするというか、お聞きする方について考えていく必要があると思います。

もちろん、それぞれの案の多寡というか、出された御提案の量の問題もありますので、おそらく整理をすると導入機能に関しての御提案って非常に沢山あると思いますので、その部分を無視するわけにもいかないだろうから、その部分はちょっと多めに御意見をいただくようなことはあるかも知れませんが、ただ、だからと言ってそちらが中心となって、交通の話がちょっとで良いわけではないだろうというのが、私の今のところの認識になります。

なので、これに関しては、第1の作業でまずこの表を作って全体の整理をして、分類分けをして、その中で特に聞くべき貴重な御意見というか、参考にすべきものがあるというものを、その中からABCか分かりませんが、ランク付けを幹事会でやりまして、それをお示しして、全体の案の分布を見て、検討委員会の方で最終的に決めていただくというような、そういうやり方が1番良いんじゃないかなと。

つまり、この幹事会はあくまで取りまとめをする場所ですので、あらかじめプレゼンテーション対象案を絞って上程するというよりは、我々はこういう観点で各御提案を整理したら、こういうふうな形になるので、このなかで御検討くださいと、そういう形が良いのではないかなというふうに思っておりますけれども。よろしいですかね。

(川畑幹事)

論点のカテゴリーが4つ出ていますよね。これで整理しましょうということで、これはこれで良いと思うのですけれども、いずれにしても検討委員会に出たときに、もうちょっと色んな意見があった中で、別の視点と言うのですかね、さっき時間軸の話もさせていただきましたけれども、やはり全体として皆さんが望まれている中では、非常に賑わいのある良い空間だから、これは大事

にしましょうねということは、おおよそ皆さんの御意見なのですけども、要するに、じゃあそれをどう運営していくのかとか、どういうやり方でやっていくのかという、例えばエリアマネジメントの考え方もあるでしょうし、いろんなそういったやり方ということまでいかないと、ただこれをやればいいですねというだけでは、結局皆さんが望まれるようなものにはなっていない。

そういったカテゴリーというか、視点というのですかね、論点もあるけど視点も必要だというその辺をもう少し突っ込んでやらないと、ここから検討委員会に上がらないと、検討委員会もそういう議論をしなくなるのではないかと思いますので、是非そういった、もう少し広げた議論をしていただければと思います。

(木方座長)

大変貴重な御意見。分かりました。そういうことでいうと、今のこのカテゴリー分けに加えてですね、少しそういう「その他」と言ってはちょっと変ですけども、もう少し運営の話であるとか、事業の進め方であるとか、そういったところに対する御提案みたいなものも特記して抽出するような、そういう枠を考えまじょうかね。それは非常に大事なことかと思えます。ありがとうございます。

(有馬委員)

これもまちづくりの現状なのですけど、まずエリアが設定されて、その次にするのが用途の混合なので、このところを今議論するところで、それがあって初めて街路の整備とか、交通ネットワークとか、そういうのを考えないと、後先になってしまうと混同してしまうので、今はエリアの設定と用途の混合とゾーニングをここできっちりやりまじょうかというみたいな方向でやっていただければ、それが終わったら街路の整備について話をしまじょうかみたいなことになるので、ここの意見をまとめて欲しいと言っているのは、これは後だなとか、これは今だなとかいうジャッジもしたいので、そういう方法でやっていただいた方がいいのかなと思います。

(木方座長)

はい、分かりました。少し説明を加えますと、いわゆるインフラの整備とか事業の話は、おっしゃるとおり後のことだと思います。先程、私が話しま

した公共機能の話というのは、むしろ計画の話でして、全体の位置付けをどうするかという議論のことなので、それに基づいて道路を変えましょうとか造りましょうという話までいってしまうと確かにタイミングが合わないの  
で、そのことはおっしゃるとおり後のことになると思うのですが、ただ全体を考える上でそういう問題を頭に入れておかないと出来ないということなので、事業化の話とは別の話なので、そこは御理解いただいて。ただおっしゃるとおり、今回、最終的にゴールにするのはあくまでゾーニングなので、そこに焦点を最後には持ってこれるようにしたいと思います。

はい、よろしいですかね。じゃあ一応、取りまとめの方法とプレゼンテーションの対象というものの選び方に関しては、今、概ね私の方で整理させていただいたような形でとりまとめ作業をしまして、その結果は何らかの方法で皆さんに御確認いただくことになるかと思えます。

よろしいでしょうかね。はい、ありがとうございました。

### 議事(3) ゾーニング素案の考え方(案)について

(木方座長)

次に、(3)の「ゾーニング素案の考え方(案)」につきまして、事務局の方から説明をお願いします。

(富宿室長)

〈 説明 〉

(木方座長)

はい、ありがとうございました。ちょっと1点御議論を先にしなきゃいけないことを忘れていまして、プレゼンテーションの方法をどうするかを話さなければいけなかったのですが、これが終わってから話しをさせていただきます。今の流れにて取りまとめの方法とゾーニングの考え方を繋げて話しをしていますので、まずこちらから先に進めさせていただきます。

今、説明がありましたことをおさらいしますと、**資料3**の1ページのような論点、そこから始まりまして、ゾーニングですから空間の分布の話をするので、まず港湾機能として港湾計画という現行の法定計画があって、その次にグランドデザインあたりが導入の機能であるとか、その繋がり、あるいは、

特に中心市街地との人の回遊性ということを言及している。その後、スポーツ・コンベンションセンターの話も含めて、その上でもう少し具体的な導入施設の話がいくつかありまして、それに加えて皆様から出していただいた様々な導入機能の意見を暫定的ですけども、こういうふうに位置づけてみたというのが資料3の6ページの図になります。この資料3の6ページの図の中にも、例示しますと、路面電車の話であるとか、ペDESTリアンデッキの話であるとか、交通ルートである臨港道路の変更だとか、立体駐車場とか、そういういわゆる機能といういわば、やはりインフラの部分を提案されているのもありますし、あるいは、緑色で示しております交流（公園とか緑地）とかありますが、ここはやはり、何も導入するというのは導入しないというか、開けておいて景観をちゃんと確保しようというそういうことだと思いますので、この辺りもう少しですね、全体に先ほど話しているような論点というところから整理をしまして、もう少しわかりやすく、今までの議論と、それから皆さんからいただいたご意見をまとめる形で図にしていくと、そういう流れかなというふうに思っています。あくまでですね、今まで色々出されてきました各種の検討であるとか、上位計画であるとか、既存の計画であるとか、そういったものの重ね合わせの上で、今回出していただいたアイデアも重ねてみて、全体を眺めてみる。そういう方向でゾーニングを作っていくのかなと思っています。ただ、色々多く情報が入ってきますので、最終的にはどこかでエイヤとまとめるというか、そういう形にはならざるを得ないわけです。何かこれについて、例えば、何か抜け落ちているものはないか、あるかとかそういうことがあれば。先ほどの川畑幹事からおっしゃっていただいた時間軸の問題は、もう最終的にはこれに織り込んでいく必要があるのかなという気はしますね。つまり、例えば、各種の参考図でいう港湾計画ですね、これは一応法定計画なので、例えばこれを大きく変えて、今、ふ頭用地となっている北ふ頭のところ、このふ頭機能というものを外すとなると、国の審議会にかけるとかですね、あるいは、逆に移転をさせる航路の行き先の港の整備が終わってないといけなとか、いろいろな種々の条件が関わってきますので、簡単にこのグレー色を外せない。時間軸を踏まえ、方向性として、そういう方向でやりたいことは示すことはできますので、そういう意味ではもちろん視野に入れていいのですけれども、この土地をどうするか、ただ最終的には、そのゾーニング案を提示する段階では、現実的な問題を鑑みつつ、段階的に計画年限を別途設定しながら、少しゾーニングを考えるっていうことも当然必要になってくるかなと思

います。はい、橘木幹事どうぞ。

(橘木幹事)

このゾーニングについてなんですけど、今日資料を見せていただいて、特にこの資料3の3ページとか見ていただくと、オレンジのところが今回の利活用の場所となっているわけですが、現状ここは港湾施設で航路もありますし、特に今の北ふ頭、南ふ頭はですね、当然可能性としては、その港湾機能を外す、航路を変更するとか、船着き場を変えるとか、可能性としてはあるのかもしれないですけど、今の検討委員会の中でも、こういう話はちょっと出てなかったような気もするんですけど。私も全部見ているわけではないので、間違っていたらごめんなさいなんですけども、まず、このゾーニングを考える場合には、これ全体全てを隈無く使わないといけないというわけではないと思いますし、まず、核になる施設、今のところはスポーツ・コンベンションセンターになるのかなと思うんですけど、まだ、それもはっきり決まってない段階ですし、さらに鹿児島市の方では、まだ本港区にサッカー場を作りたいという話も消えてはいないが、かなり厳しいというふうにはなっているみたいですが、そういう核になるような施設が、まだはっきりしない中で、ここは港湾施設を外して、何かを作らしましょうとか、それはちょっと順番としておかしいのではないかなと思うのですよね。どうしても県民の方たちが、こういうものを作らないといけないということだったら、そのときに初めて土地が足りないで、港湾施設を外すとか、そういう話になってくるべきものであって、当初から港湾施設を外していくというのはちょっとおかしいのではないかと思います。以上です。

(木方座長)

ありがとうございます。その通りだと思いますし、当初からそういうことを決められるわけでもないと思います。

なので、先ほど川畑幹事からもお話のある通り、やはりそれはその段階でできること、それから近未来的向こう50年ぐらいまで出来ること、それからそこから先をどうするのかという議論の余地のある、その辺りを最終的に切り分けて話をしないといけないだろうと思いますね。

なので、一旦ゾーニングを皆さんからいただいたご意見なんかも含めながら、例えば、資料3の6ページの図のようなもので作っていったとしてもです

ね、これがある種時間軸の設定なしで、ボンと出せるわけでは多分無いとは思っています。はい、平田幹事どうぞ。

(平田幹事)

旅客船協会です。この資料につきましては、**資料3**の5ページと8ページですかね、検討委員会、あるいは、アイデアといったものについて取りまとめた資料ということで、見やすい資料だと思う。

ちょっと1つだけですね、確認しておきたいところがありまして、**資料3**の5ページの南ふ頭高速船ターミナルの上に港湾機能の確保という記載があります。

一方、北ふ頭の部分について、これは第2回の検討委員会の中で私どもの有村委員の方からも発言があったかと思いますが、港湾としての機能を踏まえつつ、全体像の検討を行うことを目的とする。この基本原則だけは守っていただきたい、そういったような発言があったかと思いますが、そういった発言を受けて、こういう文言が入っていると思うのですが、北ふ頭は入っておりませんので、ここも、やはりちょっと意図的なのかよく分かりませんが、一応こういう記述についてもぜひ記載していただくようお願いして、また、**資料3**の8ページの方もまたお願いしたいと思います。

(木方座長)

これも大変重要なことだと思います。事務局の方もご留意いただくようお願いいたします。

よりそういう意味での現実性というか、そういった部分も含めて、これから皆さんからいただいた意見というものを取り込んでいくと、まさにそういうことだと思いますので、その際にやはり港湾の機能ということは、実際の社会を支えているベースの部分だと思いますので、きちんと頭に置きながら考えていくということで、それは委員会で出た意見のとおりだと思いますので、そのとおりのやりたいと思います。そのほか、どうでしょうか。

(有馬幹事)

平田幹事がおっしゃったような延長線なのですけど、もともとこの地区は、一番重要な施設は港湾なので、港湾施設の陰を薄くしてまちを作るというのは絶対だめですよ。

それと、まちづくりには核が絶対に必要なので、当該地区の核というのは港であるし、港湾施設であるし、スポーツ・コンベンションセンターであると僕は思っているの、核のないまちはすぐだめになるので、核をまずしっかり位置づけるのが大事だと思うので、その部分はしっかり、幹事会ではなくて（検討委員会に）訴えて行けた方が良くないかなと思います。

商業的な意味で言うと、核と言うけど、商業的な側面からすると人を連れてくる、人を集めるという理由があるので、人が集まらないところに商業は成り立たないのですよ。ここにいかに楽しいものを持ってきても、その核に限りがあったら、その部分は、今は楽しくても、どうせ時代が過ぎたら楽しくなくなるので、その時に対応できないのですよ。だから、核の設定すごく大事なので。そこは港湾とスポーツ・コンベンションセンターしかないと思うので、優先事項としてそこは立派に作っていただくことが、ウォーターフロントの開発の第1出発点だと思うので、それをしっかり認識していただきたいと思うと。

ついでだからもう1つ、こういう資料もだけど、僕は選ぶ側の責任もあるので、面白いこれ、そういうことありえないのですけどこういうメンバーの中で、一番の大事にしていただきたいのは、コンセプト。賑わいを作るためにどういうものだったら本当にそれが実現できるのかどうかという、ここに書いてあるコンセプトを大事にしていただきたいのと、ただ僕は中心市街地の代表なので、1つだけキーワードでもいいからアーバンという都会的というキーワードを入れていただきたい。前のコンセプトには温故知新が入っていたので、古い物は大事にして新しい物を取り入れるというみたいなのが入っていたので、そのキーワードでどこかに入れていただきたい。そのキーワードとコンセプトを選ぶ側はしっかり認識しないと、その都度その都度これが良いあれが良いみたいになってしまうので、ちょっとこれ、なってしまう。

僕はもう少なくとも僕はもうそんな責任を十分感じながら、一生懸命考えながら、選ばせていただきたいと思うので、それはもうこちら側の問題なので。僕はすごく（県民意見に）興味があるのですよ。皆様のご意見、自分が思うことと、同じような方が考えていらっしゃる方もいるのだなと思うとすごく嬉しいので、そこはもう僕も大事にしていきたいと思うのでぜひお願いします。



(木方座長)

ありがとうございました。はい、どうぞ。

(森幹事)

はい森でございます。私は検討委員会の委員にも参加させていただいているので、委員の立場でもというような感じではありますけど、この資料3ですね、今後の論点ということをもとめていただいたこの資料に関して、前回から少し修正していただいていると思うのですが、非常にわかりやすくまとめられているなと思います。

再三皆さん幹事の方からもお話出ていますけど、委員の立場として言うと、やっぱりこの検討の土台というところ、港湾はしっかりやらないといけない、それは前提ですとか、それから、グランドデザインにしてもそうですし、スポーツ・コンベンションセンターというのも、矛盾しませんというところから議論が始まっているので、今回いろいろ県民の方々からのご意見募集はしつつもなんですけれども、そもそもの前提をまた大きく覆すようなことが本当にあるのかどうかというか、そこまで立ち返ってなにか議論しなければいけないとなると、收拾がつかなくなるというわけじゃないのですが、まあ大変かなという思いもあります、多分今回、これまでの議論を前提として、今後の論点をまとめさせていただいたと思います。

先ほど川畑委員がおっしゃったように、やっぱり時間軸の話とかっていうのもすごく大事で、こういうことできたらいいよね、ということはそうかもしれないですけど、それやるまでに10年15年かかりますって言ったときに、その町はそれまでの間、本当にどうなるのですかっていう視点は必要だと思いますし、私は銀行の立場なので、先ほどもちょっとお話ありましたが、提案に沿った中身を実際に運営しようとすることができますかとかということ。どちらかこの場よりかは検討委員会の方かもしれませんが、こういう視点でしっかり見ていかなければいけないところなのかと思っています。

一旦はこういう形で今後の論点で取りまとめさせていただいたのはすごくいいかなと思うのですが、何かそもそもの前提を大きく変えてしまうという議論まで本当にやりますかどうしますかということは、なんとなく皆さんの目線感としては持っていただくのがいいのかなと思います。そこまで前提を変える必要があるという、選択肢が無限にあるというか、收拾がつかない、そういう感じになりかねないと思いますので、そんな前提を共通認識として

皆さん持っていただいた上で議論していただくよう進め方をさせていただけるといいのではないかと思います。

(木方座長)

ありがとうございました。出された意見やアイデアを拝見していますと、端的に言えば割と白黒はっきりというご意見もありますけれども、そのちょうど両立をするようなところを提案されている意見もあったりとか、あるいは、先ほどからお話しているとおり、それとは全く違う論点で新しいアイデアを出されているものもあるし、今のお話非常に難しいところではあるのですが、せっかくいただいた意見なので、やっぱりそういう意見を見ながらですね、今、少なくともここで検討の土台になっているものというの、今まで示されたような土台のまま、それでいいのかっていう議論も当然ありえて、例えばけれども、グラウンドデザインだとかスポーツ・コンベンションセンターの構想も、当然それはベースにはなるものですね、いろいろいただいた意見の中でどうその様子に少し調整をすることができるのかどうかですね、我々としては視野に入れていいのだろうと私は思っています。

せっかくいろいろな貴重なご意見いただきましたので、今持っていることでベースにしている検討の土台を基本にしつつ、やはりいただいたご意見を踏まえて、よりよいものにしていくっていう、そこに生かせるようにぜひ持っていかなければいけないかなと思っています。まあ、なかなか難しいところですが、やっぱりそこをしっかりと幹事会としては踏み込んでいかないとですね、皆さんにご意見をいただいたということの意味が無くなってしまうので、ぜひご協力をよろしくお願いします。

はい、よろしいですかね。今の話でなかなかこのゾーニングのまとめ方というのも作業として非常に大変なことになりますが、特に今日いただいたお話としては、まずやはりいくつかの検討の論点をしっかり入れていくということと、それから時間軸とかですね。そういった視点もしっかり入れながら、ゾーニング素案を作っていくということで、それで作業を進めさせていただきまして、また示したいというふうに思います。よろしいですかね。はい、どうぞ。

(川畑幹事)

私もちょっと不勉強なのですが、時間軸の話が出てましたよね。

逆にこのスポーツ・コンベンションセンターというのはいろんなニュース

を見ていますと、例えば、PFIで決まりましたよとか、知事は何年には出来ますよとか、ある意味そのスケジュール的にはありますよね。県の方はご存知だと思うのですが私どもはちょっとニュースでしか見ないのでわからないのですが、それを一つのゾーニングをすとかと言う上では、これだけポツンとできました、これはそのうちやりますよでは整合性は取れないという気もするのですがその辺はいかがなのでしょう。

(木方座長)

まさにおっしゃる通りで、例えば一番端的なことと言えば、駐車場がなければできませんよね。そうすると駐車場をどこに置くか決まっていなくて事業化できないと思いますし、特にPFIとなると、この施設だけではなくて、開発対象地域をどうして、それに全体のその要するに事業スキームを考えなければなりませんので、単独でそれだけというわけにはいきません。

ただ、県のスケジュール感は一応示されていますので、それをベースにしつつ、ただ、必要などころで必要な機能というのはちゃんと考えていかないとはいけません。

それも専門的なことと言えば2段階3段階の事業スキームで考えることもあり得ますので、専門的な話になりますけど、例えば、第1段階ではこういう工事にしといて、より次の感じでこうすとかというのもあるし、そこはやはり理想的にこういうふうな姿を作りたいということは大事にしつつ、現実的にやっていく部分として、どこから着手するかという話になる。何か最終的にはそうなるのではないかと思います。

それはかなり後半の煮詰まってきたからの話になりますので、現段階ではそれを前提にあんまりそこで縛ってしまうと、やっぱりより良いものに到達しないかなと感じています。

私の思いとしてやっぱり本当にあるべき姿をまずちゃんと視野に入れたうえで、それに近づけていくうえで、当座の事業と位置づけていくかという、そういう形にしないといけないのかなと思っています。はい、どうぞ。

(郷原幹事)

私は夕べ徹夜したら、今朝次々に電話が入りまして、夕べ深夜に県から電話が来て個人情報はどうのこうのということで、次々電話が来ましてね。まあ、そういうあれがあったにしても、県が県民の意見を聞いていこうという姿勢

はまた別の話だから。そういう問題があったにしても、県としてはやっぱり県民の意見を聞こうということ、ますます盛り上がってもらいたいと思うのです。こういう機会を県が作ってくださるといのは画期的なことだと思うのです。

ただ、ずっとこれを見てもみますと、先ほどからスポーツ・コンベンション施設、これはもう造るのが決まっているのだから、その後の部分を県民の意見を聞こうとされているのか、その辺りがはっきりしないままに県民から意見を募っている、これに対する不信感というのが県民の中にはあるのですよね。

もう1つは、もう少し県も踏み込んでご説明していただきたい。今、いろいろお話がありましたように、ここは屋久島航路が出ている、ここは与論航路が出ている。だから、ちょっと動かせないとか、そういった具体的な話があると、ここに出ている意見をどう吸い上げるかということの柱があるのですけど。それがないままに、いい意見だ、これがいいとかの判断ができないと思うのですよね。だからそういったもう少し踏み込んで県はここをどうされるつもりなのか、そういうされるのに県民の意見を聞いてもここはちょっと難しいとかいうようなことのご説明があればまだ判断のしようもあると思うのです。私は委員会で初めから言い続けているのはクルーズ船の受け入れ場所を造ってほしいということをお願いしているわけです。

ところが、この資料3の中には1つも入っていないわけです。それはしょうがないと思うのですけど、ただ、今、ジャパネット（クルーズ）が来ているのです。一番人気があったのは照国神社だそうです。そこへ行ったけれども、交通渋滞で非常に遅れてしまって、船の出発が遅れたのだそうです。

よく考えてみますと、今の勢いで行けば、2年か3年かの間、鹿児島県の人口よりもたくさんのクルーズ船客が来るのです。これは革命的なことだと思うのです。こんな人がやってくると。ところがほとんどが降りないのだそうです。交通渋滞で行くところがないと。これ、本港区に船で来ると10分で来るのです。そこから、天文館なり照国神社なりにいけば非常に最短距離でいけるわけです。そういう受け入れ施設中継地点としてどうやって活かすか、これは元々そういうことは考えがないと言われれば仕方ないのですけれども、それを私は重要だと思うのです。

マリンポートにあれだけのお金かけて、そして成功してクルーズ船がコロナ時期前以上の客が今着きようとしているのです。それをどうやって受け入れるかということが喫緊の課題だと思うのです。

私はこの本港区にそういう役割を果たしてもらいたいと思って、ゾーニングの計画の中にぜひ入れてもらいたいと思っているのです。以上です。

(木方座長)

ありがとうございます。多分資料3の5ページのところですかね。これまでの検討委員会のところで北ふ頭のところにクルーズ船と書かれているというところで、入っていないというわけではないと思うのですが、ただ、これは例えばクルーズ船が着いて、鹿児島市の人口に比べて非常に大きな人が来るといことなのですが、例えば、照国神社に短時間で行くとなると、この北ふ頭から市内に入る交通の動線をどうするのかとか、バスの寄せはどのようにするのか、歩いてということもあるでしょうね。そういうところの整理整頓をしないとイケないわけですよ。その辺りと、例えば物流の話はどう変わるか、いろんなことがやはり全部絡まってきますので、それはその当然視点としてはご意見を出されている方もいらっしゃるの、当然加味していくわけですが、それを全体のバランスの中で見ていくということで、いやそれはもう初めからそれがあるのかなのかというふうに決まっているわけではないと思うのです。

ただそれに伴って起こるといのか想定しなければいけない状況を把握した上で、先ほどから出てきています時間軸を見ながら、できることを考えていく。そういうことになるのだらうと思います。何かありますか。そうしましたら県の方からご説明申し上げます。

(土木部長)

県の方からご説明を申し上げます。お手元の資料の参考1をご覧くださいければと思います。第2回検討委員会の資料2から抜粋してございまして、県民からの意見募集の手法等についてのご説明の資料でございます。

こちらの3、募集内容をご覧くださいますと、郷原幹事の御指摘に対する答えに該当する部分の記述がございまして、本検討委員会につきましては、スポーツ・コンベンションセンターの基本構想を前提として、同エリアの利活用を検討すると、このような位置づけになってございます。そのような中で、本検討委員会の中におきましては、2ページ目にごございますように、スポーツ・コンベンションセンターについても開かれた施設としての整備や、中心市街地との回遊性、施設のデザインなどに関するご意見があればいただくと、このようなことで意見の募集をさせていただいたところでございます。

他方で、このような募集の仕方の枠にとらわれず様々な意見をいただいていることは承知してございまして、それ1つ1つの県民の皆様からの意見だということでございますので、それは尊重しながら、より良いものを作っていくとでございます。以上でございます。

(木方座長)

ということですので、今の郷原幹事のご質問から言うと、スポーツ・コンベンションセンターがこのように建つことが決まっているのかということですが、どう建つのかというところはまだ議論の余地があるので、その部分はしっかり皆さんからのご意見を聞きながら、より良い案にしていくってことが必要なのだろうと思っています。

それは、この検討委員会、あるいは幹事会の中でそれはできることですので、そこはしっかりやっていく必要があると私は思っていますけど。

中には様々なご意見があることありますんで、そこのご意見の趣旨を踏まえながら、あるべき姿をきちんと提案するということが我々の責務かなというふうに思っています。

よろしいですかね。そういった形でゾーニング案に関しても、今後検討していきたいということでもよろしく願いいたします。

## 議事2(2) プレゼンテーションの方法(案)について

(木方座長)

ちょっと順番を間違えてしまいましたけれども、プレゼンテーションのやり方についての議論をさせていただいて今日は終わりにしたいと思います。

プレゼンテーションのやり方のところは資料2です。そこにプレゼンテーション参加希望者から委員会で選定をしてプレゼンスするわけなのですが、通常で言うと、プレゼンテーションというのを何名か選んでですね、前で喋ってもらって何分とかっていう感じなのですが、95案というのがプレゼンテーションしたいというか、しても構わないというふうにおっしゃっています。

しかも重要な案もたくさんありますので、ちょっと数点だけ選んでプレゼンを聞くって勿体ないなっていう感じもしてまして。

ちょっと私が事務局と相談をしている中で、これができたらいいなと思っているのは、少しポスターセッション的なことができるといいかなと思って

いまして、つまり、例えばお部屋をどこか借りましてですね、その95プレゼンしてもいいよって行っている方の案は少し掲示をしましてですね、見ていただくような。もちろんネットでは公開をしますので、見ていただければもの実際に見ていただいて、あるいは時間を決めてですね、何月何日の何時から何時ぐらいまでは、例えば90案のうち30人ぐらいの人が、この時間に来ていただいて説明していただけることでお願いをして、市民県民の方に少し個別にお話をさせていただくような、そんなような事をやってもいいのかなという個人的には思っています。

その話と別にプレゼンテーション対象者を選んで、それはもうちゃんとホールできちんと時間決めてスライド出して質疑応答もやると。

何度も言いますが、どの案が優れているか、どういう案が良いかなということよりは、検討委員会で考慮すべき視点とかですね、論点とか、そういったものを幅広く拾い上げることが目的なので、そういう意味で言うと絞り込んだプレゼンテーションだけを聞くよりは、もちろんその中にも非常に多く提案が含まれていると思いますけれども、小さな案でも非常に面白いものも何かお話を聞いてみたいなっていう感じはします。

これはちょっと事務局のご苦勞をおかけするとなるかもしれませんが、できれば、例えば週末2日間ぐらいね、場所と時間をとって、例えば展示をして、初日は少しポスターセッションでみんなの意見を聞きたい人が聞けるような時間をとって、2日目は、例えばその中でいくつかをプレゼンテーションで具体的に質疑応答であるとか、そのぐらい何か丁寧にやっても私はいいのではないかなというふうに個人的には思っていますけど。

そんなわけで、実現可能性はどうか。これも私の間でポツと言っていますので、ちょっとあんまり無責任なことも言えないのですけど。

(土木部長)

この後、幹事の皆様方ですね、さらに具体的な内容をご検討いただければと思います。今、幹事長がおっしゃった内容でありましたら、対応は可能ではないかと考えるところでございます。

(木方座長)

他に何かもっとこんなやり方とかですね、この時代ですから、例えば全然違う発想のプレゼンテーションもあるかもしれません。いかがでしょうか？も

う本当にご自由にアイデアをいただければと思うのですが。

(有馬幹事)

この資料を見ないと議論はできない。

(木方座長)

資料を見つつ、見ていきながらですね、それやっていくしかないのですが、ただそうは言っても、一応、方向性だけは決めて、やり方も最終的には幹事会でもうちょっと議論して決めていきますが、たくさんある意見というものをどんなふうにして、特に我々の幹事会であるとか、検討委員会の方も資料もじっくり見る事で、責任もありますのでやるのですが、やっぱりむしろ県民の方に、単にネットで見てもらうじゃなくて、考えていることを少しコミュニケーションする場をどうやって作れるか、そこをちょっともし今私の方としてはプレゼンテーションに加えてできればポスターセッションみたいなことができたらというふうにあるのですが、他に何かいいアイデアがあるかあるいはそれはポスターセッションあったらちょっと大変なんじゃないかっていう、そういうご意見もあるかもしれません。いかがでしょう。

(有馬幹事)

ぜひ自分でも喋ってほしいという方を募るのが先じゃない？ どうしてもイヤという人もいるだろうし。何か資料なかったっけ。

(木方座長)

95名いるのですよ、そういう人が。やってもいいよってマルを付けている。

(有馬幹事)

95名自分も喋りたいとおっしゃっている？

(木方座長)

書類上はそういうことになっていますよね。

(木方座長)

なので、私の提案はその95名に喋ってもらう。



(有馬幹事)

座長の言うとおりに、喋っていただければいいかも。

(木方座長)

長時間決めて、何時から何時までは大変なので、ポスターセッションっていうのですが、その場に行ってもらって、見た人が近くに寄って、どういうこと？って聞いて、お話してもらいたいな。学会なんかでよくやるのですよ。非常にたくさんの方の発表があると時間決めて発表できないので、もう全部出しておいて、時間にあったら発表します、選んだ人だけやりますなど、何かそんな格好でもいろんな人の意見をとにかく1回聞いてみたいっていう我々も聞いてみたいのです。

そんなのができると私としては非常に嬉しいですが。

(橋木幹事)

公開ですか。

(木方座長)

公開ですね。私のイメージはそういうイメージです。

(橋木幹事)

幹事会の立場として委員会に繋ぐということを考えていくのであれば、委員会に県民の皆さんの意見をどういうふうにして展開していくかというのは重要なんじゃないかなと思うのですよ。だから、そういうふうにするのもいいとは思いますが、それは委員を対象にしないとちょっと意味がないのではないかなというふうに思います。時間的なものもあると思うのですよね。

(木方座長)

これはちょっと私も考えなきゃいけないところですね。皆さんお忙しいのですよね。その部分もあるので、どうするかというところですね。それちょっと今後少し事務局とも相談して、ご懸念の件がクリアできるようにはしないといけないかなというふうに思います。

(橘木幹事)

ちょっと意見がたくさん集まっているので、私もちょっと見させてもらいましたけども、なかなか時間を要するし、ただし、先ほど冒頭の時にあったみたいに、同じような趣旨の意見というのも重複していたような気がしますので、それを分類しまとめて類似したものをまとめて作業をしてくださるということで、それを委員会の方に提示するということでしたよね。なので、類似したものの中からいくつか選ぶというような形の方が現実的じゃないですかと思います。

(木方座長)

その方向もちょっと検討して、やっぱり数の問題は当然ありますし、もう1回例えば今のような形式で考えたときに、それでもご発表いただけるかどうかというのは再確認する必要があるというふうに思いますので、一つの大きな方向性としてそのプレゼンテーションをちょっと拡大というか、広めできないかということでご理解いただいて、その具体的なやり方ですね、どんなふうにやるか、あるいは委員長、委員とか、幹事の役割をどう考えるだとか、あるいはその他もろもろ含めてですね、ちょっと現実味のあるというものを作っていきたいというふうに思っています。ありがとうございます。やはり、アイデアとしてはやってみたいものの難しい部分もあると思いますので、その辺、今いくつかいただいたので。はい、どうぞ。

(有馬幹事)

僕、1日限定だったら頑張ってお出てきますので。いや、僕は聞きたい。

(木方座長)

ありがとうございます。ぜひぜひそういう方々がたくさん出てきていただけたら嬉しいですよ。私も楽しみにしたいなど。

(有馬幹事)

8時間かかろうが10時間かかろうが構わない。

(木方座長)

その辺はまた具体的に作ってみて、できそうなところですね、ご相談したい

と思います。1日半ぐらいで駄目かな。なんか森幹事あります、ご意見とか他にこんなやり方があるよとか。

(森幹事)

はい、ありがとうございます。やり方は本当にいろいろあるのだろうなというふうに思います。私は委員として感じていたのは、これまでも今回のこの議論は県民の方にとって本当に大きな論点なので、しっかり積み上げてやっていくというのは県の方の姿勢がよくわかりますし、こういう会も公開にして広く県民の方にもこのまず議論自体を、まさに自分事としてというか、しっかり認識してもらい、関心のある方にはちゃんと情報を提供する、これはもう最初から徹底してやってらっしゃるなと思っていました、そういう観点でいくと、委員の立場として、先ほどの論点なのですが、こういう論点で見たときにはこういうアイデアというのはぜひ聞いてみたいよね、というのはもちろんあるのですが、それに加えて当然ながら、やっぱり県民の方に対しても、こういう議論、アイデアが上がっていますよ、ということホームページで公開するだけではなく、しっかりと知ってもらうことは積み上げた議論と同じなのですが、しっかりステップを踏んでいく、というのが、やり方としてはしっくりくる気がします。

私自身も1人の県民として、いろんな意見を聞いていきたいです。ただ、委員としてはやっぱりこの論点でどうなのか、ということだと思いますし、場合によっては、熱量みたいなものをじかに肌で感じたいなという思いもあるので、直接話を聞く機会がいただけたほうがいいだろうと思います。

(木方座長)

ありがとうございます。いかがでしょうか。山中委員、何かありますか。ご発言。大丈夫ですかね。わかりました。そしたら方向性としてはそういう方向でちょっと準備をしてみてもいいですね、なるべくいい形ですねやってみると準備をしてみたいと思います。ありがとうございます。

一応、今日決めなきゃいけないことは以上です。それではですね、一応本日の議題はこれまでということとさせていただきます。